俳句ポスト11月の入選句

選者　中屋　敏子

一般の部（投句数47句）

芝の上吹かれ落葉の休み処　上小泉　水落　洋子

鷺翔ちて俄かに暮れし草紅葉　北野　金山　千鳥

秋うらら図書館前の待ち合わせ　田中新町　松尾　浩子

小中学生の部（投句数804句）

あかいろのもみじいちまいひろったよ　東部小1年　小幡　勇斗

おうちまでいっしょにかえろ赤とんぼ　西部小2年　ひだ　千絵

雲うかぶぽっかりぽっかり秋の空　東加積小2年　石川　みゆう

赤とんぼ夕やけ見てて目が赤い　寺家小2年　小林　たいが

こたつはね家族があつまる場所なんだ　南部小3年　高村　せいや

おちばさん今日もひらひら小鳥なく　寺家小4年　水野　汐理

秋風が私といっしょにかけっこだ　南部小5年　よしだ　みゆ

オリオンに空から私見られてる　田中小6年　林　美和

いがぐりは木に咲く小さな花火だよ　北加積小6年　石田　りな

博物館より

『俳諧早稲の道』と川瀬知十（ちじゅう）

江戸時代の滑川町の人々の文芸的な遊びの一つに、俳諧がありました。大町で本陣を務めた桐択家に、天和三（一六八三）年、吟遊俳人の大淀三千風（おおよどみちかぜ）が来泊し、主人の蓮蛙と唱和した記録が残り、また、『白根草』という俳書には、この頃、青山酔丸や岡本清芳という俳人もいたことが書かれています。

近年、県内の俳諧史研究家から市在住の印刷業者を通じて、『俳諧早稲の道』という宝暦十三（一七六三）年に出版された古俳書が市立図書館に寄贈されました。

この本は、江戸時代に唯一滑川で編集された貴重な書物で、京都の有名な版元の橘屋から出版されたものです。

編集したのは、町で旅籠を営み、後には町の肝煎役も務めた川瀬屋の七代目の主人彦右衛門で、知十と号した人でした。巻頭に「築塚の旨趣」が記され、次に滑川の荒磯に臨む古刹に句碑が建つ様子が描かれた挿絵が配されています。言うまでもなく、当時はまだ荒町海岸にあった徳城寺の「早稲の香や分け入る右は有磯海」の芭蕉翁の吟を刻んだ有磯塚を表しています。この俳書は、芭蕉七十回忌に、知十が中心となって有磯塚を築いた趣旨が書かれており、江戸の高名な俳人とともに滑川の人々も多く登場し、当時の俳諧による交流がよくわかる歴史的にも重要な資料です。

滑川の生んだ優れた国文学者であった故柚木武夫先生は、当時、唯一所蔵していた天理大学へ通われ全文を解読し、また、京都の川瀬家へも調査に行き、過去帳などを調べてその成果を『滑川の俳諧』にまとめられました。ともに、市民の大事な文化財です。

題　筌

みんなの図書館

☎ 475-8001
FAX 475-9041
〈開館時間〉
午前10時～午後6時

〈休館日〉
12月4日、6日、11日、18日、23日、25日、29日～1月4日

図書館では、リサイクル本のコーナーを常時設置することになりました。

場所は1階エレベーターの前です。保存期間の過ぎた雑誌や本などを置いています。欲しい本や雑誌があれば、いつでも自由にお持ち帰りください。また、家で不要になった本なども受け付けています。

10月の貸出冊数 9,975冊

新着図書案内

（図書館のホームページに多数の本をご案内しています）

◆一般書

- □養老院より大学院　内館　牧子
- □美丘　石田　衣良
- □還らざる道　内田　康夫
- □奇謀　鳥羽　亮
- □雷の季節の終わりに　恒川光太郎
- □王妃マリー・アントワネット　藤本ひとみ
- □ダ・ヴィンチの白鳥たち 上・下　カレン・エセックス

◆児童書

- □深海にひめられた地球の真実
- □干し柿
- □十二支のことわざえほん
- □オリビア　バンドをくむ
- □おおきなかしの木
- □ラーバンとラボリーナのクリスマス

12月の催し

＜こども映写会＞ 4F
2日(土)　午後2時～
「まんが世界むかし話㊽」

＜おはなしかい＞ 2F
9日(土)　午前10時30分～
「絵本のよみきかせ」
講師　おはなしママの会

＜冬休み子ども会＞ 4F
16日(土)　午後2時～
「音のくれよんコンサート」
講師　音のくれよん

＜読書会＞ 3F
22日(金)　午後1時30分～
「いつかパラソルの下で」森　絵都 著
講師　竹林萌子さん

＊グループ研修 3F
・「江戸文学を読む」
2日(土)　午前10時～
・「俳句研修」草樹萌の会
16日(土)　午後1時～

＊絵画に見る「現代の人間像ー1」
4F 展示コーナー
11月28日(火)～12月24日(日)

R100 あなたと市政を結ぶ「広報なめりかわ」は、リサイクル推進のため再生紙を使用しています。